

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 47～53 節 ＞

1 他の福音書との比較から見えて来ること。

イエス様の逮捕の出来事は 4 つの福音書全てが記しています。それらを読むと、ルカ福音書を記したルカは、読み手がすでに知っていることを略して記していることが分かります。ユダが「接吻した相手を捕えろ」と指示したこと、弟子たちが皆逃げたことなどです。

2 気になるのは、弟子が切りつけた行為の是非。

今の時代を生きる私たちがここを読んで気になるのは、切りつけた弟子の行為の是非でしょう。イエス様はすぐに「やめなさい。もうそれでいい」(51)と言われて癒されたとありますから、為すべきでなかったことははっきりしています。しかし、ルカが記していることをもう少し丁寧に読んで考える必要もあります。イエス様が言われた言葉の後半（「もうそれでいい」）を直訳すると「そこまで（にしなさい）」です。頭ごなしに怒られてはいません。また、「事の成り行きを見て取り」(49)は、「これからどうなっていくかが分かって」です。そしてルカは「**主よ、剣で切りつけましょうか**」(49)と聞いた後に切りつけたと記しています。これらを読んで思われることは、弟子たちは弟子たちなりに考え、イエス様に問いもし、その結果、良かれと思って行ったが、それはイエス様の意には適っていなかった、ということです。

3 聖書は、武器の使用をどのように教えているか。

では、やはり聖書は「剣で人を傷つけてはならない」と教えているのでしょうか？ パウロは、正しい為政者が悪を行う者に対する剣の使用を認めています（ローマ 13:4）。とすると、52 節は、為政者が過ったこと（神の子を捕らえて殺す）をするのに剣を用いることへの批判と言えるでしょう。53 節は、それら人間の愚かな行為も含めて神様の恵みのご計画の中に入れられていることを示しています（マルコ 14:49、マタイ 26:56 では「旧約聖書の言葉が実現するため」と明記）。では、今日の個所から、信仰者は武器の使用をどう考えたらいいのでしょうか？ ①悪しき者に対する武器の使用はあり得る、②しかし人間は判断を誤りやすい、③どうなろうとも神様がイエス様によって実現して下さった救いの中に置かれている、以上のこと思いつつ、平和を実現する人（マタイ 5:9）を目指していこうではありませんか。